

います。学校を中心とした防災対策・組織の必要性については、各学校に対して学区内の地域住民や関係団体に対し、積極的に情報提供を行い、災害時の協力体制の構築について要請するとともに、防災担当部局と連携をしながら、適切な対応に努めていきたい。

◆ ※今回の通告質問は、防災教育に力を注ぎました。持ち時間六〇分の

残土埋立て 問題について

坂田区の残土埋立て計画は、合法的な許可手続きを踏んだとする事業に対し、環境へのマイナス影響を懸念して反対を唱える市民と、行政はどちらを優先するのか。市長は「苦渋の決断」をし、更に条例の見直しを進めると発言しました。

質問①…市長の言う条例の見直しについて今後市は条例改正をどのように進めるのか。
質問②…条例改正で住民の意向をどのように反映させるのか。

条例改正とは、つまり県条例適用

うち、四〇分をかけて市の取り組みと今後についての質疑を重ねました。ここに、再質問を示し、防災教育と地域防災の在り方について再考いただければと思います。

●再質問（防災教育）
限られた年間の授業時間数の中で、防災教育の授業の確保をどのようにするのか？／指導要領として体系づ

除外を受けるのか、現条例の検討修正なのかをお尋ねします。

また、今回の坂田地区の問題のように市民の様々な意見を受け止めなければならぬ中で、市民の意向をどのように反映させるか伺います。

●答弁…市が主体となり、責任を持つて対応することが必要だと認識していますので、県条例の適用除外を受ける方向での見直しを考えています。また、条例改正で住民の意向を反映させるため、環境審議会への諮問や、パブリックコメント実施による市民からの意見聴取を考えています。

PFI事業の 導入について

担い手を育成していくべきだと思います。その必要性と今後組織化への支援を考えるか伺います。

●答弁…農業者の主體的な創意工夫をもった取り組みの促進など、将来の担い手となる若者にとって、地域農業が魅力ある産業となるよう努めていきます。

また、農業者の交流機会の提供など、農業者間の連携強化による農業における協働事業が育まれる基礎づくり、組織の活動に対して支援していきたいと考えています。

けられているのか。／防災教育の学習内容が保護者にどのように伝えられているのか？／安全管理担当の教職員の防災研修は行われているか？／災害に関する防災マニュアルは出来ているのか？／災害用ヘルメットの常備について。／子供たちの安全確保のための地域防災本部の設置について。／学校が避難場所に指定されているが、避難所運営委員会の設置について？

質問①…PFI事業の導入についてどのように考えているか。

質問②…今後のPFI事業の導入計画について。

市の取り組み公共事業や公的資金を投入する事業へのPFIシステムの導入について、また今後の導入計画について市の考えを伺います。



議会で質問する龍崎議員

※PFI（プライベート・ファイナンス・インシテチブ）「民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法」

●答弁…導入に当たっては、事業形態や市と民間の役割分担等について十分に検討するとともに、民間事業者の参入意向を踏まえながら、総合的に検討していく必要があると考えています。館山市では、現「第三期館山市基本計画」で、新市庁舎の整備において、「民間資金等を活用した整備手法の導入について検討する」としています。

就農者支援と 後継者育成について

質問①…農業振興の基本は就農者の育成と定着にあると思うがその取り組みについて。

質問②…主體的な農業者の集団化・組織化の必要性について。

現在までの館山の農政は観光農業・体験農業・農商工連携など様々な角度で、振興策が打ち出され、今後の館山市の農業の方向性が示されてい

館山気象観測所について ― 銚子地方気象台の見解 ―

【館山市の調査結果】

気象観測の使命は、国民の生命財産の安全確保を第一の目的としている。現在の館山気象観測所が多くの住民が生活する市街地に存在することは、本来の気象観測の目的を果たすための絶好の位置に設置されている。

館山気象観測所が現在の位置に設置されてから四〇年以上が経過しており、仮に観測所を移すこととなると同一時点での観測にて蓄

積された貴重なデータの継続性を失うことになる。

これまでの長期にわたる観測データは、各種防災気象情報の提供・解説に利用されているとともに、昨今の地球温暖化防止対策にとって極めて重要なものとなっている。

仮に観測所を移転することになれば、農業を始め、気温を含めたこれまでの気象観測による予報を活用することが必須の生業に携わる人々にとって重大な問題となる。

以上のことから、館山気象観測所を他の場所へ移すことはない。

（関連記事「中道」「あどがき」参照）

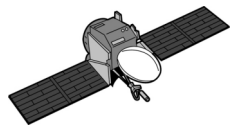
中道

本来の気象予報とは…最近話題になっている気象観測点の移転について一言述べたいと思います。私は気象予報や予測気温は広い範囲での気象の変化を伝え、さらに地域限定の気象情報を伝えることにより、住民の生活及び産業への注意喚起を目的とするものだと考えています。つまり、この予報は穏やかな日よりも、特に注意すべき気象条件の時に効果を発揮するものである。しかるに、今回のこの話題と移転要望の動きは、房総半島の観光的なイメージにマイナスであるという発想から起きていることに甚だ疑問を抱くものです。

私は昭和五十四年から館山市の内陸部で農業を営んでいます。当時は、今日のような優れたハウ又暖房機の普及は少なく、冬の冷え込みは農産物の成育に多大な影響を与えるばかりか時には甚

気象予報

大きな役割を果たし



大きな役割を果たしているはずですが。したがって、館山市長須賀の気象観測点を基準として出される気象予報は、今も大きな目安となっていることは言うまでもありません。特に冬期において、私は居住地の位置や長年の経験から館山の最低予想温度から、さびに二度下

がることを予測していますが、南房総市の内陸部に住む人々も同様に現在の予報を適宜役立てているものと思います。寒気が房総半島を覆い、氷点下の冷え込みが予想される気象条件において、海風の吹く一部の無霜・海岸地帯の温度予想にどれ程のメリットがあるのか甚だ疑問を抱かざるを得ません。観光的なメリットからの指摘は理解が出来ないことではありませんが、房総の観光振興は訪れる方々の感動を呼び起こすような内容の充実こそが大切であると思います。そして、気象情報の本来の役割は、そこに住む人々の安全な暮らしの確保のためにあると思われのですが、南房総市長の前向きな発言報道もあり、今一度の熟慮を願うものです。

（房総新聞記者「読者のコーナー」に投稿したものを転載）

